

伝えられ、近所の人々は手桶に汲んで、肩にかついで運んでは飲んだものである。難病の人も、死ぬ寸前に、一言「薬師清水の水」と口走ったという。一口飲むと「ああ、うまかった」といって一命を閉じたといわれる。

祭礼は旧四月八日で、出店も沢山出て、にぎやかだった。以前は木戸もあつたが、いつのまにかなくなつてしまつた。

(話者 菅野精一)

念仏清水の由来

《志 茂》

志茂字札場にある清水で、昔、北横田、大久保村の農家が大旱魃の年に、水不足で困り果てたあげく、上流の水源地の札場の所に来て、雨乞をして、酒を飲み、念仏を唱えながら谷地を掘ったところ、念仏の節に合せるようにもくもくと水が湧き出て来た。それ以来、念仏清水と呼ぶようになった。

念仏清水

その後、旱魃の年には、この清水の所に来て、念仏を唱えながら清水を廻つて、雨乞いをしたという。



(話者 石井 栄)